

四度加行の基礎資料 (三)

―『四度加行用心等(十金胎護)』(前)―

中山照玲

この『四度加行用心等』は、成田山仏教図書館所蔵^①『四五六』の写本である。

縦二三・七センチ、横一七センチ、四ツ目綴の線装袋綴本で青色の表紙で題簽が貼られていた跡が残っており、その跡に硬筆で『四度加行用心 全』と記され、綴代側^{とじしろがわ}に所蔵者であった有豊(有豊を用いる)師の名前が墨書されている。内題には「四度加行用心等 報恩院流」とあり、更にその下に所蔵者有豊師の朱印(縦三・七センチ、横二・二センチ)が押印されているが、この写本の書名としては原則であるこの内題に依ることにした。

真言宗僧侶の実践修法の基本を修学するための用心を教示する本書は、当然写本として流布していたのであるから、各地の代表的な真言宗寺院には所蔵されていたはずであるが、どうしたことか『国書総目録』^②には、この成田山仏教図書館所蔵のこの一本が取り上げられているだけで、別の所蔵者が知られないのである。

この写本の小口には、『十金胎護 澄恵』と墨書されており、この書名のもものは『国書総目録』^③や『仏書解説大辞典』^④に数部取り上げられていて、その中に別名として『四度加行用心等 報恩院流』の内題のあることを示している。

この『十金胎護』の名称が普通に流通していたようであり、筆写所蔵の一本も外題に『十金胎護』とあって、内題が『四度加行用心等 報恩院流』となっている。

また本書は、上醍醐行樹院の澄恵（二四三二―一五一六）口述宥怡い記で文龜元年三月九日の成立であり、それから見て『国書総目録』^⑤、『仏書解説大辞典』^⑥に見られる、『四度加行日記』もこの『四度加行用心等』の別称であると思われる。

本書は最初に、上醍醐行樹院の第三十四祖とされる澄恵法印が、明応七年（一四九八）の秋に関東に下向され、真言宗僧侶の基本的実践修法である四度部や灌頂部の伝授を行った時、その伝授の口説を受けた受者の一人である宥怡師が書き記したものであることが記されている。

この関東への下向には、当然旅費が必要であり、澄恵法印は下向に先立って自身が所有していた、山城国南郷の田地二段を売渡すという売券を、明応七年（一四九八）三月二十日付で書いたものの写しが、醍醐寺の古文書に保存されている^⑦ようであり、时期的にも符合するであろう。

撰者未詳の『野澤血脉集』第二巻付法第三十五祖（行樹院の第三十四祖）の澄恵には、第三十六祖となる源雅を含めて十八名の付法者の僧名があげられていて、その中に常州筑波知足院宥玄、同水戸和光院即也房宥怡、同所六蔵寺理順房恵範の三名の名前が見られ、この中の即也房宥怡が本書『四度加行用心等』の筆記者で、底本には無いが筆者所蔵の別本の奥書には、即也房宥怡の名前が見られ、原本はこの僧侶の筆録と思われる、これによれば関東下向の目的地の一つに常州（常陸）^{ひたち}があつたことが知られる。

澄恵権僧正が第三十四祖であつたとされる行樹院については、上醍醐にあつたようであるが不明である。

この澄恵師の孫弟子にあたる深応権僧正が、永祿八年十二月十二日に、この行樹院で行つた印可灌頂の指図が、寛永十一年二月二十二日に堅覚により転写されて醍醐寺に保存されている^⑧。

なおこの指図中に記されている印可灌頂の受者六人の名前の中に、上品蓮台寺中興第一世となり、その後徳川家康の命により豊山長谷寺第二世となった、頼心房性盛（一五三七〜一六〇九）の名前が見られる。

この澄恵師の時代は争乱の時代で、この頃のことを中島俊司著『醍醐寺畧史』によって見るならば、「是れ文明の大乱以来一山の荒廢其極に達した所以を物語って居るものであって、嘗って室町幕府より安堵せられた莫大なる諸領も一山の荒廢に加へて兵馬倥傯の間たるの故を以て日を逐ふて連絡を絶ち以後重賀中性院賢深後釋通院澄恵行樹院源雅報恩院前大僧正と記しておられる。

澄恵法印の関東下向の明応七年（一四九七）の頃は、応仁の乱（一四六七）以後約一世紀続く戦国時代の争乱の時代で、京の都は荒廢し、諸寺院の堂塔伽藍は焼失して公家や僧侶は諸国に下向しており、澄恵法印もその一人であったといえよう。

おそろくうち続く戦乱の国内各地を巡錫しながら、それぞれの地の人達からの希望を受け、曼荼羅会中の諸尊との救済の縁を結ぶべく、結縁灌頂を修しておられたと推察され、結縁灌頂が国内に弘通し弘まったのは、この時代であったのではないかと考えられる。

註

- ① 立私成田図書館和漢書分類目録 第一編 明治四十三年十月十五日発行 三十頁上段。
② 『国書総目録』第四卷 昭和五十二年七月二十日 第二刷発行 岩波書店 一五三頁 第一段。

- ③ 前註②『国書総目録』第四卷 二五一頁 第四段。
- ④ 『仏書解説大辞典』縮刷版 二〇〇〇年 六月二十八日 第二刷発行 大東出版社 第五卷一六〇頁 第二段～第三段。
- ⑤ 前註②『国書総目録』第四卷 一五二頁 第四段。
- ⑥ 前註④『仏書解説大辞典』二〇八頁 第二段。
- ⑦ 寶月圭吾「醍醐寺行樹院澄恵賣券とその背景―「誘取賣券」を中心として―」『研究紀要』第三号 醍醐寺文化財研究所 昭和五十六年三月三十日発行 三頁～四頁。
- ⑧ 『野澤血脈集』真言宗全書 第三十九卷 昭和五十二年十月三十一日発行（復刊） 通頁三九二頁下段～三九三頁上段。
- ⑨ 総本山醍醐寺編 醍醐寺叢書史料篇『建築指図集 第一卷』平成二十四年十一月九日発行 解説篇九頁～十頁。
- ⑩ 中島俊司著『醍醐寺畧史』醍醐寺寺務所 昭和五年六月十五日発行 一五九頁～一六〇頁。

凡例

⑧底本 成田山仏教図書館所蔵 〔和〕四五六 〔四〕四五六 『四度加行用心等』澄恵口述有怡記

これは右の『四度加行用心等』澄恵口述有怡記の写本を明和三年（一七六六）八月に智積院第二十二世化主動潮僧正（一七〇九〜一七九五）が転写し所持しておられた本を、さらに有豊師が享和三年（一八〇三）二月に再転写した写本である。

⑨別本 筆者所蔵 外題『十金胎護』内題『四度加行用心等』澄恵口述有怡記

この写本は高野山西院山本坊で石州銀山之住舜良房有壽が、慶長十四年（一六〇九）八月二十日に写得したものが、安永八年（一七七八）八月十日に丹州何鹿郡西方村寶満寺苾芻智光が転写した写本である。

⑩真福寺本 〔幸〕心方 四度次第 弘法大師一千百年遠忌記念出版 昭和七年六月十五日発行。

この『四度加行用心等』で引用している四度部の念誦次第の部分については、この真福寺本を参照することにする。

等^一等
恩^一恩

四度加行用心等^① 報恩院流

①「等」別本ニハ総テ「等」ヲ用イテイル。

御^一御

明應七年^{戊午}秋之候醍醐寺之行樹院法印^{澄惠} 御下向之

兼^一承

時奉受法^{先達ヲ入壇^後ニ} 次^②四度傳法等ノ法則等兼ニ御口

②「次」ノ字ノ前ニ別本デハ「之」ヲ加エテイル。

説^一於^二御前^ニ書付之^一了

禮^一礼、拜^一拜
与^一事

禮拜加行之与

与^一與、坐^一坐

一加行作法、折紙^{謂^ニ之ヲ日記^ニ當流^ト字^ハ地藏院^ト折紙也} 二二三

無^一无

日以前^ニ有^二傳受^一或^ハ當日^ニ傳受亦無^レ苦

③「坐」↓「座」。コノ底本ノ筆記者ハ、座ト坐トヲ混用シテオリ、適宜改メラルコトニスル。

様^一様、輪^一輪

一道場様本尊^{如意} 大師尊師奉^レ懸^レ之^{三幅外^ハ④} 付^レ之^大

左^一左、両^一両

師尊師懸様本尊ノ左右両説有^レ之^{但此^ハ局^ニ當流^ニ佛界右^ヲ上^トス}

ル故大師^ヲ本尊ノ右^ニ懸^レ之^ヲ或^ハ大師ノ向^キ様背^ケタル

故^ニ左懸^ル之^{如^レ常又一義四度^ニ左右^ヲカヘテ奉^レ懸^レ}

无^一無

之^タ也^{已上餘流^ニ此^ハ沙汰^{先^レ之}}

④「如常」別本ニハ、小字ニテ割書ニナツテイル。

尔—爾

濕—湿、闕—闕

護—護摩

勒—勒

邊—邊

燈—灯

漉—漉

一立花 油器 松ニハ旬⑧十日替ヘ 地ニハ 七日宛ニ替レ之

也 當流ニハ 不レ尔花ハ限レ萎ムヲ器ハ濕ヌレハ替レ之也

一入堂之事 四度之間ハ不レ可レ闕日 但依ニ難レ去

公私⑤之用事ニ有他宿等本壇ヲハ不レ動本尊ヲハ入ニ本尊

袋ニ隨身シ何レノ所誰レノ人ノ壇⑥袋任取出出懸レ之⑩三時ノ

行有ルヘシ若シ護ノ廣ノ時ハ香藥ヲ入ニ本尊ト同袋ニ隨身シ

乍レ入レ袋ニ行レ之又其ノ所ノ堂社參レ但本寺ノ佛神ノ所

作努と不レ可三闕忘一如レ例勒レ之其ノ所ノ堂社ト者内裏

ニテハ 内侍聆 他所ニテハ 近邊佛神等也

一開白初夜時 佛供熟調二杯本尊大師導師ニ各ニ燈明ハ二灯

也但後夜ノ時ヨリ一灯也佛供初後二時一向无之日中洗

米也ム云本義如レ是雖然於ニ本寺ニ近來

鈴杵漉水塗香柄香呂柄香呂ノ四度之間不置之不置之但松橋ニハ 礼拜ノ時

後夜ニ粥米ニ入ル、水ヲ也 有之又柄香呂置之

一開白結願ノ時并ニ毎日ノ日中ニハ 大師尊師ノ所作必ス可

⑦「之」ノ字、別本ニハ無シ。

⑧「不レ可レ闕日」別本ニハ、「不可有闕日」トアリ。

⑨「私」ノ字、別本ニハ無シ。

⑩「三時」行有ルヘシ」別本ニハ、「三時、行可有ル」トアリ。

⑪「隨身」乍レ入レ袋ニ」別本ニハ、「隨身シ同ク乍入袋」トアリ。

⑫「其ノ所ノ堂社」別本ニハ、「其ノ所ノ當社」トアルガ、同ジ別本ニ行後ニ、「其ノ所ノ堂社」トアリ、別本ノ写誤ト思ワレル。

⑬「其ノ所ノ堂社」別本ニハ、朱筆ニテ右肩ニ「御自筆」ト書キ込マレテイル。

⑭「初後二時」別本ニハ、「初後夜ノ二時」トアリ。

有之四度間惟レ同シ

写一寫一寫

一次第書写ハ五十日以前也傳受ハ七十五日已後也或ハ

一度ニモ傳受シ漸々ニモス

15 「以前也」別本ニハ、「以後也」トアリ。
16 「漸々ニモス」別本ニハ、「又漸々ニモス」トアリ。

一暗誦ノ間十二時中不可間斷之一朝夕例時惣ノ寺役等

17 「不可間斷之」別本ニハ、「不可間斷」依之「トアリ。

迨一迄、陰一陰

迨モ許レス之一向无ニ諸役一如レ此惜ニ寸陰一无ニ油斷一故

衆一衆

不交衆一不沐浴一不切爪一暗誦了ナハ渡ノ次第ヲ於師ニノ

前ニテ校合之一資ハ暗誦 仰云校合以前ニ可有ニ内校一

兩一兩

云於ニ師主ノ前ニ校合也已前ニ先語ニ別人一ヲ同一兩度モ内

校ヲ沙汰スヘシ是ハ予初而沙汰スル之一者也但先哲モ此

18 「也」別本ニハ無シ。
19 「是ハ予初而沙汰」別本ニハ、コノ六字無シ。

欵一歟

義在之欵可尋之也上校合ノ後立印 仰云朝夕例時ハ許ス

暗誦ノ間計一也其外ハ專行者ノ役トスヘシ云

塾一塾

一日數百日但百ケ日 日中マケナルハ結願スミニハ塾調ニ杯灯明燈ニ

如ニ開白大師導師ノ所作同レ之 結願ハ必ス可ニ日中ノ時ナル

20 「計」別本ニハ、「許リ」トアリ。
21 「百ケ日」別本ニハ、「百一ケ日」トアリ。

拜一拜

一十八道ノ初行ハ加行拜結願ノ其ノ日ノ初夜ニ必可ニ開白一

表白有レ之大師導師ノ所作供灯ハ四度共ニ初行正行 皆以可レ准ニ礼拜開白結願也 一七日滿後升一日

22 「明」別本ニハ、「明」トアリ。

迄一迄

叟一事

勒勤、与一與

中ニ可ニ結願スミミノ夜ニ正行開白スヘシ表白ハ初行ト同

也假令ヘハ改ニ二七ケ日ノ句ヲ可レ讀ニ一百日ニ迄也百日

満シテ結願ス如上 仰云若有ニハ用叟一初行ト与ノ正行一

中間ニハ閣ニ勒行一不レ苦加行ト与ノ初行一中間ニハ曾テ

一日モ不レ可レ切必結願ノ行夜可ニ開白一初行又一七日ノ結

願ニモ座数ハ可ニ一廿一ケ座一ナル故ニ八日目日中時百日ハ

三百座也故ニ結願ハ可レ當ル二百一ケ日ノ日中ニ廿一ケ日等モ

可ニ准知一日別ニ三座宛也礼拜加行ノ百箇日モ如レ此ナ

ルヘシ

金剛界加行事

一金剛界ノ加行ニハ如意輪ノ法道ヲ十八百日修行ス表白在レ

別ニ供灯次第書写暗誦等ノ叟如二十八道ノ百日ノ加行了テ

金界ノ初行開白ス之二十一ケ度満了テ結願スル等ノ事悉如ニ

十八道ノ

②③「二百日」別本ニハ、「二百ケ日」トアリ。

②④「如上」別本ニハ、「已上」トアリ。

②⑤「廿一ケ日等モ」別本ニハ、「廿一ケ日 十日等モ」トアリ。

②⑥「金界ノ初行」別本ニハ、「金界ノ初行 大法界」トアリ。

②⑦「廿一ケ度」別本ニハ、「廿ケ座」トアリ。

胎藏界加行事

隔—隔、澤—澤

广—摩

一 台藏加行ニハ金界ノ大法百日修之ヲ両界ヲ一年ノ中ニ不可傳受シ修行一ス必可隔年ヲ野澤共ニ同也但シ胎藏加行ハ金界ト同年モ无レ煩次初行正行開白結願ノ作法等ハ、如レ前ノ正行百日ノ中チ七十五日過テ可ニ護广傳授一

護摩事

數—數

一 護广ノ加行前ノ十金台ノ外ニ各別ニ不レ可レ有レ之胎藏ノ日數了テ護广ノ初行開白スミミ結願佛供灯明如レ前ノ但汁菓子ハ田木ノ間ニ隨中間ノ日中ニハ米佛供也汁菓子无レ之ハ田木ノ間ニ隨後夜ニハ粥二杯汁菓子備フ之飯ニ入レ水用之一也初夜ニハ佛供无レ之神供ハ一七日ノ中ニ初開白中四日後八日夜七日六日目可有之七日満ノ初行結願ス

続—續

一 初行結願ノ夜相続シ正行ノ開白有レハ之初行ノ結願ニ無破壇一正行ノ開白ニハ無作壇一又正行ノ開白ノ夜神供アルヘシ百日ノ間ハ旬[㊤]一ケ度宛都合十一ケ度也初行正行合スレハ

㊤「旬ニ一ケ度」別本ニハ、「二ケ度」トアリ。

因

十四ケ度神供也百日滿了テ三百結願ノ時必可レ有ニ破壇一

曰ニ云長日護ニ神供ノ度數地藏院ハ如ニ當流一十日ニ一ケ

度宛也松橋ニハ一七ケ日一度宛也七日護ハ三流一同也

一焔ハ必ス新ニ可レ塗レ之作壇ハ他人モ沙汰スルニ不レ苦ラ

一護ハ時ノ菓子ハ一種也田菓子餅木菓子木間ニハ隨ニ求

得ニ用レ之松ニ二種共ニ必用レ之也若有ニ伴僧一丁寧ニ

修セ之何レノ流モ供物等可ニ丁寧ナル已上ノ分ハ四度隨一ノ

護ハノ時事也能ニ可ニ分別ス地藏院亦如レ此但當流多分

用ニ田菓子一ヲ来欵雖レ然不レ可ニ局定ス千日護ハ同レ之

已上

實

一問四度初行正行ニ差別異リ如何 仰云実ハ各別ニ不

可有之故ニ當時モ用否任意一雖レ然長日勤行日數未滿ノ

中ニ或ハ病起又ハ餘事一日モ有ニ懈怠一縱ヒ雖ヒ修ニ九十

餘日ノ一日二日上未滿ナラ者其ノ一ケ度ノ中テハ加行

迄テ悉破レ之更ニ可レ修レ之如レ此非分ノ難ハミレ遁ニ肉身ノ

29 「二ケ度」別本ニハ、「二度」トアリ。

30 「二度」別本ニハ、「二ケ度」トアリ。

31 「二種也」別本ニハ、「只一種也」トアリ。

32 「松」ハノ前二別本ニハ、「二行後ニアル」地藏院亦如レ此但當流ハ多分用ニ田菓子一欵雖然不可局定ニガ書キ込マレテイル。

33 「分」別本ニハ無シ。

34 「正行」別本ニハ、「正」トダケアリ。

35 「用否任意」別本ニハ、「用否可任意」トアリ。

36 「迄」別本ニハ、「退」トアリ。

取―最

上ニ故ニ為ニ故実ト号ニ初行ト取初ノ凡一ケ度ヲ先ツ結願
シツレハ一ケ度豫成就也此ノ上ニ号ニ正行ト又行レハ
万一有^レ懈怠一可レ改ニ正行ノミヲ也若初行七日ノ中チノ難
ナラハ先^レ力加行マテ可レ改也此ノ義更以不^レ及ニ料簡一
此等ノ法度ハ諸流一同也

輕―輕

一問重服輕服義如何 仰云重服ハ父過ニ百日一可レ始之^{④①}
若修中ナラハ即破壇ノ百日ノ後其ノ一ケ度ノ取初ヨリ可ニ改メ
修一若シ輕服ハ兄弟^ホ且ク止ニル入堂一迄也不^レ闕ニ勤行一云

禁制之事^{④②} ④③祖師ノ張文有之
故粗拳也

一 飲酒

一 童形觸犯

一 勝負

一 諍論雜言等此ノ段非制之限^{④④}

一 見物

一 解帶ヲ臥事

③⑦ 「行レハ」別本ニハ、「修レハ」トアリ。

③⑧ 「料簡」別本ニハ、「斷簡」トアリ。

③⑨ 「重服輕服義」別本ニハ、「重服輕服
等義」トアリ。

④① 「可始之」別本ニハ、「可如之」トアリ。

④② 「不闕」別本ニハ、「不可闕」トアリ。

④③ コノ「禁制之事」別本デハ、後半ノ
順序異ナルガ、内容ハ同ジ。

④④ 「祖師」別本ニハ、「初師」トアリ。

④⑤ 「此段非制之限」別本ニハ、小字ニ行
割書ニナツテイル。

一 脱衣袈裟事

一 池桶鈎火鉢置ニ身ノ側ニ事

一 自身可摘花事
④真下八公家一也
良(旨)家ノ人モ必
自身ツムヘシ

一 普請等懈怠之事 已上

一 礼拜加行ノ時本尊ノ勤ニ理趣經ノ勸請ニハ自他法界同利

益文尊師ノ勤ニハ宝号畧レ之弥勒ノ咒百遍謂レ之也松一ニハ

尊師ニ如意輪ノ心咒地一ニハ宝号也④南无尊師文 仰ニ云四度ノ

法則等大概如レ此ノ钦委旨ハ隆源ノ御記六ニ有之④四度士代云

才一第一第

一 嚩ニ関伽一備ルニ花其ノ次才ノ前後無シ定ル様ニ雖レ然常ニ

先ツ花ヲ二葉重テ中ヨリ押シ折テ末ヲ関伽ノ器ニ打チ入レ本ヲ

塗香器ニ入ル、也関伽器ノフチニ花ヲ立「懸ル」惡シ関塗ノ二

器共ニ花ヲ中ヘ打チ入ル、迄也假令塗一ニハ花ノ上ニ香ヲチト

散ハ是レ丁寧ノ義也尔ニ花ノ折目ヲ香ニサシテ入ル、事常ノ

兼一承、宜一宜

義也但是ハ兼仕ノ便宜ノ故実也更ニ非ニ本義一又非ニ不法一

④「如意輪」別本ニハ、「如輪」トアリ。
⑤「南无尊師」別本ニハ、「南无根本尊師」トアリ。

④「関伽器」別本ニハ、「関伽」トアリ。
⑤「花」別本ニハ無シ。

⑥「関塗」別本ニハ、「関伽塗」トアリ。
⑦「打チ入ル」別本ニハ、「折入ル」トアリ。

也

髮—鬢
養—養、尸—嚴

体—軀、体、膝—膝

數—數

問如^レ此^ク兼^レ仕^レ便^ニ宜^クノ故^実ト云^レ事^{如何} 仰^云阿伽^⑤棚^ニ小^土
 器^ニ入^レテ^テ香^ヲ阿伽^ヲス、キ花^ヲ盛^ル次^ニ香^サス故^也云^次阿
 伽^塗香^其ノ上^ニ花^髻ト重^テ火^舎際^⑧置^レ之^事ハ故^実マテ
 也^其故^ハ供^養法^終リタル任^{ナレ}ハ佛^前サヒシキ故^莊嚴
 成^シ置^ク也備^ヘ並^ヘ置^クハホコ^リナトカ、リテ見^苦敷^故
 重^レ之^或ハ又^非行^法備^コ供^{スル}香^花有^レ之^其時^ハ供^ス
 ルト未^レ供^セ不^レレハ見^分爲^レ令^レ知^ニ其^ノ異^ヲ重^置之^一欵
 何^篇重^ヌルハ指^{タル}由^不レ可^レ有^レ之^次花^髻ニハ可^レ盛^ニ
 房^花一^其時^モ葉^崎ハ四^房共^ニ本^尊ノ方^ハ並^ヘ也又^一房^宛
 四方^ヘスルモ不^レ若^一葉^ツ、備^ルハ畧^義也但^密難^レ得^ナ
 ラハ一^葉非^ニ不^法
 (青筆) 豆云源雅口全罵^レ之^性盛^記見^糸玉^亦尔
 一^五体^投地^礼拜^事 両^手ニテ摺^リ珠^ヲ先^ツ右^ノ膝^ヲツキ次
 左^膝ツキ其^ノ後^両手^ノ珠^ヲ不^レ放^タ手^ヲ仰^背ニテ地^ヲ押^シ
 兩^手ノ中^程ニ首^ヲ付^ル也當^流左^ニ記^レ數^タ松^一地^ニハ右

⑤「阿伽」別本ニハ、「闕伽」トアリ。

⑧「故実マテ」別本ニハ、「故実」トアツテ「マテ」無シ。

③「有レ之」別本ニハ無シ。

④「其ノ異」別本ニハ、「其ノ由」トアリ。

⑤「次」別本ニハ無シ。

⑥「二葉」別本ニハ、「二葉花」トアリ。

⑦「背ニテ」別本ニハ、「手ノ背ニテ」トアリ。
 ⑧「首ヲ付ル也」別本ニハ、「頭ヲ付ル也」トアリ。

ニテ記スル也惣ノ摺レ珠ヲ有ニ流ニ不同一當レ一両手共ニ珠ヲ
 懸ニ中指ニ達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}ハ左松^{⑤⑥}モ懸ル^{⑤⑥}ハ両ノ中指ニ同也 達^{⑤⑥}ハ右緒
 留左以^{⑤⑥}テ之爲レ異地^{⑤⑥}ハ懸ニ兩頭指ニ達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}右緒留左也三
 流共ニ摺^{⑤⑥}レ珠ヲ第^{⑤⑥}ヲ掌中ニスル也又仰^{⑤⑥}テ左手^{⑤⑥}ヲ覆^{⑤⑥}ニ右
 手^{⑤⑥}也

問流^{⑤⑥}ニノ不同各有^{⑤⑥}ニ所以^{⑤⑥}一乎

仰云雖^{⑤⑥}レ无^{⑤⑥}ニ必定^{⑤⑥}ノ口傳^{⑤⑥}一先哲意楽何ツ空^{⑤⑥}ン乎 先ツ両ノ

中指ニ懸^{⑤⑥}レ事^{⑤⑥}ハ仏界^{⑤⑥}ノ火大增長^{⑤⑥}縁^{⑤⑥}ト成^{⑤⑥}テ生界^{⑤⑥}ノ火大^{⑤⑥}増勝^{⑤⑥}

ナラシメ生佛^{⑤⑥}ノ火大和合^{⑤⑥}ノ百八煩惱^{⑤⑥}ヲ烧^{⑤⑥}尽^{⑤⑥}スル也 次ニ

兩ノ頭指ニ懸^{⑤⑥}ル^{⑤⑥}「ハ火水風何^{⑤⑥}レモ有^{⑤⑥}ニ能破^{⑤⑥}ニ義^{⑤⑥}ニ尔也其ノ

中^{⑤⑥}ニ風力猶勝^{⑤⑥}タリ火水^{⑤⑥}ニハ有^{⑤⑥}レ残^{⑤⑥}レ所今^{⑤⑥}ハ取^{⑤⑥}ニ強勝^{⑤⑥}ニ欵^{⑤⑥}ニ界ノ

風合^{⑤⑥}スル^{⑤⑥}「准^{⑤⑥}レ上^{⑤⑥} 意教^{⑤⑥}ノ流^{⑤⑥}ハ右ノ風^{⑤⑥}ト左ノ火^{⑤⑥}トニカクル也

達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}ハ左^{⑤⑥}ニ佛界増勝風力^{⑤⑥}ヲカツテ生界劣弱^{⑤⑥}ノ火^{⑤⑥}ヲ吹起^{⑤⑥}也

達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}ノ左右^{⑤⑥}ハ随記^{⑤⑥}レ数^{⑤⑥}ヲ也 右覆^{⑤⑥}左仰^{⑤⑥}「ハ諸佛^{⑤⑥}ノ大悲遍^{⑤⑥}ヲ

覆^{⑤⑥}ニ衆生界^{⑤⑥}ニ之意欵^{⑤⑥} 但翻^{⑤⑥}ニ小野流^{⑤⑥}ニ廣澤方^{⑤⑥}ハ右仰^{⑤⑥}ケ左

⑤⑥ 「流ニ」別本ニハ、「流」一字ダケニ
 ナツテイル。

⑥⑦ 「達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}右緒留左」別本ニハ、小字ノ二
 行割書ニナツテイル。

⑥⑧ 「兩頭指」別本ニハ、「兩頭」トアリ。

⑥⑨ 「達^{⑤⑥}留^{⑤⑥}右緒留左」別本ニハ、小字ノ二
 行割書ニナツテイル。

⑥⑩ 「流ニ」別本ニハ、「流」一字ダケニ
 ナツテイル。

⑥⑪ 「仏界」別本ニハ、「佛^{⑤⑥}ハ佛界」トアリ。

⑥⑫ 「增長」別本ニハ、「増上」トアリ。

⑥⑬ 「烧^{⑤⑥}尽^{⑤⑥}」別本ニハ、「盡^{⑤⑥}スル」トアリ。

⑥⑭ 「」別本ニハ、「更」トアリ。

佛一仏、尽一盡

衆一衆、翻一翻

覆也 所由可尋之云

問記數左右如何 仰云記ルハ數ヲ差別ノ義智惠ノ能也

惠—惠—慧、所—盱

惠門記レ數理尽セリ 又左手記レ數非レ無ニ所由一左右ノ手⁸⁸

⁸⁸「手」別本ニハ無シ。

如レ次生仏二界也 仏界平等ノ前ニハ無ニ梯橙ノ義ニ所作已弁也

生界ハ差別行位ノ不同アリ 五十四位ノ階級是也

問五十四位ノ方如何 仰云撰^レ等妙二覺ヲ於十地ニ開ニ

燻—煥—煖

四善根ヲ燻頂忍世一オ一法爲ニ五十四位ト十信ニ賢十地ニ四善根付レ之有ニ本有修

⁸⁹「四」別本ニハ無シ。

生一 記レ數時不レ越ニ達^レ廣緒留^レ五十四遍^ヲ上下スル事ハ

表ニ流轉還滅^ヲ隨緣成妄^モ離過顯德^モ不レレハ離ニ煩惱^ヲ合

煩惱—突 (略字)

テ百八煩惱也 是等ノ義邊ハ修生修顯ノ之前ノ沙汰也

無所作ノ五十四遍^ハ則本有ノ五十四位也 本有^モ修生^モ

尽—盡

沙汰スルハ无明未^レ尽ノ位也 是復百八煩惱也 言語^モ究竟

心行亦寂可思^一云 重仰云事相ノ習ハ貴ニ師傳^一ヲ故ニ

流々不同^ヲ分別^{スル}約束迄也云

才―第

十八道頼瑜⁷⁰教舞委細之故不能巨細若⁷¹兩記⁷²相違⁷³処當流⁷⁴、
依⁷⁵頼記⁷⁶一松⁷⁷可⁷⁸依教記⁷⁹近來⁸⁰如此⁸¹一用來⁸²レリ云⁸³。

此ノ次才ハ延命院御作也如常⁷⁴

行者欲入等⁷⁵ 文 仰云先調ニ香花等ヲ莊嚴了⁷⁶テ出⁷⁷道場一

閉戸一而⁷⁸後護身法 次ニ彈指三返⁷⁹ 次ニ開⁸⁰レ戸⁸¹如⁸²此⁸³之⁸⁴作⁸⁵

法⁸⁶時法則⁸⁷ハ見聞⁸⁸ヲ爲⁸⁹レ本ト⁹⁰故無⁹¹レ煩⁹²シキ作⁹³
法只⁹⁴着⁹⁵聖⁹⁶任何⁹⁷先⁹⁸様護身法彈指登⁹⁹レ禮盤¹⁰⁰

真言¹⁰¹ヲ五躰投¹⁰²レ地三¹⁰³禮¹⁰⁴登¹⁰⁵レ禮盤¹⁰⁶ 當流¹⁰⁷ハ四度ノ間不¹⁰⁸置¹⁰⁹

柄香呂¹¹⁰一之故也 已達¹¹¹ノ時¹¹²モ不¹¹³置¹¹⁴ニ柄香呂¹¹⁵一¹¹⁶事有¹¹⁷レハ¹¹⁸之¹¹⁹

只合掌¹²⁰ニテ礼¹²¹ス 普¹²²礼¹²³ノ言¹²⁴ 御修法物¹²⁵ノ大法¹²⁶ノ時¹²⁷ハ聖天壇等¹²⁸二¹²⁹

天壇ナトニハ必¹³⁰ス不¹³¹置¹³²ニ香呂¹³³一也 已達¹³⁴ノ人¹³⁵ノ行法¹³⁶ニ

有¹³⁷ニハ香呂¹³⁸一取¹³⁹ニ香呂¹⁴⁰一三¹⁴¹禮¹⁴²可¹⁴³レ誦¹⁴⁴ニ普¹⁴⁵礼¹⁴⁶ノ明¹⁴⁷一¹⁴⁸業仰¹⁴⁹一¹⁵⁰之¹⁵¹故¹⁵²

回¹⁵³ニ書¹⁵⁴加¹⁵⁵之¹⁵⁶不¹⁵⁷可¹⁵⁸混¹⁵⁹乱¹⁶⁰一初¹⁶¹
心¹⁶²与¹⁶³ニ已¹⁶⁴達¹⁶⁵一隨¹⁶⁶レ宜¹⁶⁷用¹⁶⁸レ之¹⁶⁹

着¹⁷⁰淨衣¹⁷¹ 文 仰云門跡¹⁷²ニハ時衣¹⁷³コ¹⁷⁴モニ白帷¹⁷⁵ヲ閉合¹⁷⁶テ欲¹⁷⁷入¹⁷⁸尅¹⁷⁹ニ常¹⁸⁰ノ

內衣ノ上¹⁸¹着¹⁸²之¹⁸³ヲ也 山中¹⁸⁴ニハ帷迄¹⁸⁵ノ事¹⁸⁶コソナケレ何篇

時衣¹⁸⁷ハ必¹⁸⁸ス別¹⁸⁹ニ用意¹⁹⁰スル也 若¹⁹¹シ焮白¹⁹²衣¹⁹³モノ人¹⁹⁴モ時衣¹⁹⁵ニハ

墨¹⁹⁶ヲ入¹⁹⁷ナトスル也 但¹⁹⁸於¹⁹⁹テモ山上²⁰⁰ニ僧止²⁰¹濟²⁰²證²⁰³ 御別行²⁰⁴時²⁰⁵ハ剩²⁰⁶へ

70 「教舞」別本ニハ、「教舞記」トアリ。
71 「兩記」別本ニハ、「記」トアリ。
72 「相違処」別本ニハ、「相違之處」トアリ。

73 一如「別本ニハ無シ」。
74 「如常」別本ニハ、「如當」トアリ。
75 「莊嚴」別本ニハ、「サム」トアリ。

76 「而」別本ニハ無シ。
77 「三返」別本ニハ、「三度」トアリ。
78 「時」別本ニハ、「晴」トアリ。

79 「故」別本ニハ、「之故」トアリ。
80 「柄香呂」別本ニハ、「香呂」トアリ。
81 「已達」別本ニハ、「又已達」トアリ。

82 「等」二天壇」別本ニハ、「十二天壇」トアリ。
83 「行法」別本ニハ、「作法」トアリ。
84 「故」別本ニハ無シ。

85 「尅」別本ニハ、「時」トアリ。
86 「僧止」別本ニハ、「故僧止」トアリ。
87 「御別行」別本ニハ、「御行」トアリ。

內衣迄悉着替^キ給^シ也 常住ノ淨衣装一塵^モ ○時^ニ不^レ

⑧「淨衣装」別本ニハ、「御衣装」トアリ。

用^玉ハ云

問入道場以前^ニ加持ノ衣袈裟^一着^之云 辟^衣ニテ印明

結誦ノ事如何 仰云如用來^ル此ノ時ノ印明結誦ハ不苦

⑨「如」別本ニハ、「如此」トアリ。

事^{ニモ}アリケン云

⑩「アリケン」別本ニハ、「ヤアリケン」トアリ。

香水洒身^等文教舜記^ニ受^タラン護身法^ヲ人ハ此^ニテ用^之云

仰云是アマリノ事也 既^ニ行^{スル}十八道^一程ノ人不^レ受^ニ

護身法^一如何有^レ之乎 十八道ノ傳受了^テ後行^ハ之此ノ

位^{ニテ}結誦スヘキ也 問十八道以前^ニ護身法授^之事如

何 仰云不苦^一但當山^ハ得度スレハ聽^テ而戒入堂^ト山上

山下^ヲ百ケ日入堂^ス此入堂ハツレハヤカテ始^ル別行^一間

別^ノ受^ニ護身法^一人先^之若又有^ニ此義^一如何遮^レ之乎云

心觀^え文心ノ字音^ニヨム也 仰^ニ云今ノ心ノ字下ノ小指ノ

甲^ノミ字^ムカシヨリ音^ニ用^ラレタリト覺雖^レ然殊^ニ法身

院^{滿濟}義賢^兩御代^ニ如此^等ノ沙汰嚴重也 准^后滿^義仰^云ム子^ト

⑪「甲ノミ字」別本ニハ、「甲ノ字等」トアリ。

⑫「ムカシ」別本ニハ、「昔」トアリ。

来一來

賤—賤

ヨミ⑨コ、ロト云⑩へシ成⑪テ二世語ニ賤聞ル也⑫トイエ

⑨「云へシ」別本ニハ、朱筆ノ如ク「イへハ」トアリ。

蕪—蕪

心ノ字ヲハコ、ロト訓ニヨム也⑬云

問教舜記ニ蕪

⑩「世語」別本ニハ、「世話」トアリ。

規—規、摸—摸

悉地事當宗規模ニアラサル様見タリ如何仰云不レ

兼—承

明相兼一之流⑭ニ記セラル、欵

⑪「記」別本ニハ無シ。

两眼 迦嚧彌⑮両音アリ任意但シ當流ハ多分ヒ也

⑫「迦嚧彌」別本ニハ、「迦彌」トアリ。

着座⑯文常ハ用ニ半跏⑰ヲ

⑬「用ニ半跏」別本ニハ、「用半跏也」トアリ。

着座普礼 印明必可有之⑱キラハル、流ハ不審也

塗香⑲文如⑳キハ次才一初心ノ法則也 已達ノ時ハ右ナル物ヲ

左—左

右手左ナルヲハ左也 問初心已達ノ不同何レノ位乎

仰云四度㉑ナラハ十八道ハ初心金剛界已後ハ已達也 依㉒

修練一定ニ恵ノ能恵一定ニ義有レ之十度ノ配當十八道㉓金

剛界ト異也可レ思㉔之㉕道㉖左㉗ノ小指㉘ヲ㉙權戒等ト次㉚但㉛已達ノ人㉜

貴人尊宿ノ前㉝ニテハ還㉞テ初心ノ法則㉟ニ用レ之亦無苦㊱

⑯「有レ之」別本ニハ、「有」トアリ。

⑰「金剛界」別本ニハ、「金界」トアリ。

⑱「始也」別本ニハ、「始ル」トアリ。

⑲「但」別本ニハ無シ。

観—観、
广—摩、節—節

三密観 仏部三戸耶ノ印ハ、如ニ仏頂ノ中指ノ上ミノ節シニ
二頭ヲ屈シ付タルハ似ニ付タル仏頂ニ欵
威肅古本ノカナ如レ此ル^レ此ル^レト云也

曹—曹

被甲甲ノ字、ヨロイ曹ノ字、カフト也 唐書モロキノ

字書ノ意皆以如此^一 尔^ヲ當時世人甲^ヲカフト、意得^テ

用之也 經軌説ハ、三国共ニ同ナルヘシ 本朝^{ニモ}甲^ヲヨ

ロ井ト云事勿論ナルヘシ 口決等ニ甲^ニカフトノカナ^ヲ

付タル「順^{スル}世人^ニ意也^也 印ノ形ハ、ヨロイ^トカフト^ト

不見分^一也追^テ可悉之^一

加持香水 小三古印ハ、初心ハ、如三次オ^一ノ已達^{ニテハ}大途

以ニ大指^ヲ押^ス无名指^ノ甲^ヲ 問初心已達ノ相違スル 意

如何 仰云修練ノ後得ニ自在^ヲ也 此ノ義諸事^ニハタ

ルヘシ云 加持ノ明初心時ハ、アミリテイノ咒已達^ハキ

リ、ノ咒用之^一

次取散杖一誦^ニ字九一返^一、逆^ニ攪^キ之^左マウス器ノ端^ヲ一ツ

⑩ 「付タル」別本ニハ、「付タリ」トアリ。

⑪ 「意也」別本ニハ、「意欵」トアリ。

⑫ 「初心」別本ニハ、「心」トアリ。

⑬ 「テイ」別本ニハ、梵字ノ「^テ」ヲ用イテイル。

⑭ 「キリ、」別本ニハ、「キリく」トアリ。

⑮ 「攪」別本ニハ、「攪」トアリ、眞福寺出版本四度次第所収ノ『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』ニモ「攪」トアリ、「カイト」トルビヲ付シテイル。

打次誦^マ字^九一返^一順^ニ攪^レキ之^左ヨリス

而^ノハタヲ三打^テ散^之口傳^モ旧記^モ不合^レ拍子^云云^ルニ師

主ノ行法^ノ時^{二三}ヲハヤメ給^フト聞^ク似^三合^ニ拍子^ヲ付^レ

意奉^レ見^レ之^先ツ一^ツ打^テ杖^ヲ入^レ水^ニ後^ニ二^ツ打^玉フ也

尔者^三ツキン^等ナレ^ト一^ト二^トノ間^ニ杖^ヲ入^レ水^ニ故^ニ其間

少^シ延^テ聞^ヘ二^ト三^ト間^ニ无^レハ^余事^一打^ツ、クル^ニ似^{タリ}

全非^レ合^ニ拍子^ヲ可^レ謂^ク欵^酒我^及等^次才^ニ從^東北^角

散^之親^念迄^也只^ニ横^ニ右^{ヨリ}左^ヘ三^ヒ轉^スル^迄也^左ヨリ

右^ヘカヘル時^上ヘ廻^ワス様^也如^ニ円^匝一^也一^円ニ兼^八

方^ヲ四^角上^下ス^ルハ^天地^也此^則十^万也

仰^云一^円ハ^不可^レ局^ニ八^方ニ^身壇^上供^物壇^外堂^内一^切ニ

酒^ク意^{アル}ヘシ^ト云^云

問^頼瑜^記末^上リ^ニ持^レ之^ヲ先^順ニ^三返^廻ト^云云^順逆^義不

一^定欵^今度^御遷^宮四^日或^御影^供六^月升^聽聞^仕ル^ニ右^{ヨリ}

轉^スル^人有^又左^右ヘ^轉ス^ルモ^有何^レモ^順欵

⑩「而」別本ニハ、「也而^レ器^ノ」トアリ。

⑪「ハヤメ給^フト」別本ニハ、「ハヤメテ打^給フ^ト」トアリ

⑫「キン等」別本ニハ、「拍等」トアリ。

⑬「間」別本ニハ、「中間」トアリ。

⑭「杖」別本ニハ無シ。

⑮「可^レ謂」別本ニハ、コノ前ニハ「外聞^ノ任^ナレハ合^ニ拍子^ヲ」ヲ加エテイ

⑯「身」別本ニハ、「自身」トアリ。

⑰「酒^ク」別本ニハ無シ。

⑱「記」別本ニハ、「記云」トアリ。

⑲「右^{ヨリ}」別本ニハ、「右^{ヨリ}左^ヘ」トアリ。

仰云順逆義ハ手崎^⑪下^ハ向^{ルト}右^ニ轉^シ左轉カワル様也

⑪「手崎」下^ハ向^{ルト}右^ニ轉^シ左轉カワル様也 順逆ノ義別本ニハ無シ。

順逆ノ義只同ナルヘシ今ハ順^ニモセヨ逆^ニモアレ三返繞ラス内^ニ自身及壇上等^ニソ、クト^ト親スル迄也

⑫「手崎」ハ「手先」トモ記サレ、両方共ニ用イラレテイル。

可レ依^レ二師^ノ意樂^ニ角^{カト}アリサウニ目ニタチテ作^{ナス}レ^ハ之不可

然^⑬只横^ニ三繞^ス内^ニ件^ノ親念^ヲナシ豎^ニ三轉^ノ時天地ヘソ

⑬「然」別本ニハ、「尔」トアリ。

ソクト心得^ル欵 或^ハ又横^ニ繞^ノ時^ハ八方豎^ニ轉^ノ時自身等ノ

親念^ヲ作^スヘキ欵 次^ニ順逆ノ事^ハ親心トハイヘトモ幸^ニ

從^ニ東北角^ニ散^ト之^ニアレハ南向ノ道場通途ノ事ナレハ

行者ノ右ヨリ始ムレハ自當^ル東北ノ角^ニ故^ニ何^レノ方^ニ向^ラ

トモ右ヨリ始メテ轉スルヲ宜^シト可^レ謂^ク欵 但^⑭左方ヨ

⑭「左方」別本ニハ、「右方」トアリ。

リ轉スル事ヲモ不^レ可^レ嫌^レ之^云

一散杖切事 仰云用香木一多分用^ニ梅木^一也 栢ノ木ハ

局^ニ求^聞持^一也 西天^ニ指^ソ、ク故^ニ无^ニ木^ノ沙汰^一

唐土^ニ用^柳何^篇羨^藤可^削之^一 次^ニ寸尺^ハ嫌^レ半^ヲ用^レ

⑮「用」別本ニハ、「周」トアリ。

羨—羨—羨、藤—麗

体一躰

調也 謂一尺八寸 一尺六寸 一尺四寸 一尺二寸也

依二壇ノ脇机ノ廣狹ニ杖長短如件用之一 本末共ニ一文

字ニ可レ切ル 付レ之常¹⁵ 末ノ方ニ三層八葉ヲ切付ル也

三層ノ中末ノ二層ハ向レケテ末ヘ八葉切付ケ本ノ方一層ハ返リ

花ニ切ルヘシ 刀ヲ目バカリチト見ル体也 末ノ切目ニ

又スミチカヘニ刀目ヲアテ、八葉ノ如クスヘシ 刀目深

カケレハ叩ク時水チリテ悪シ 此ノ外又有口傳一 松¹⁶ニハ

三層八葉无之末ノ方ニヨセテ一重ニ八葉ヲ切付クル也 他

門他流¹⁶ニハ散杖ノ大事トテ印明結誦有之一欵當流¹⁶ニハ不レ尔

松¹⁶ニ地有之吉削切ニ有ニ口傳一 迄也

心。中壇。中。三角。胡麻。歴然。金剛拳^文 野金¹⁶ニハ野

澤ノ異无之見タリ 雖レ然如ニ道快抄一 西西方¹⁶ニハ地水

火ノ三指ヲニギリ空ヲ屈¹⁷ノ火ノ側ヲ押シ風ヲ屈¹⁷ノ空ノ甲ノ上ヲ

風ノ甲ノハシニテ捻¹⁷スル也 仁和¹⁷ニハ空ヲ火ニテニキル也

不可混乱¹⁷ス心野澤ノ不同有之 但¹⁷依¹⁷ニ人意樂¹⁷ニ不同欵

¹⁴「長短」別本ニハ、「短長」トアリ。

¹⁵「常」別本ニハ、「當」トアリ。

¹⁶「有之」別本ニハ、「准之」トアリ。

¹⁷「ハシニテ」別本ニハ、「ハシヲ」トアリ。

已上

啓白事由^一シテ 表白取珠^{金二} 敬白等以下如レ常読レ之

後々取レ珠ヲ 金二打 令法久住等ト読テ 三部金打レ之

縦¹²⁹ 雖二何レノ 尊法也ト三部ノ金アリ 蓮花部ニハ 観自在也

其外神分ニ 観自在ト云ヲハ 依レ尊改^コ用當尊号ニ也

一當^レニハ 四度ノ間柄香呂无レ之故ニ 取レ珠金打ト云也

松^レニハ 四度ノ内モ有^レニ香呂ニ又當^レモ已達ノ自行ト晴ノ時ハ

置^二香呂^一ヲ取^レニ念珠ト香呂ト¹³⁰ 又神分ニテ 取呂^一ヲ一切神分ニ

般若心経ト¹³¹ 金一打テ置レ呂ヲ也 通法也 无^レニ表白^二時

取呂^一ヲ金ニ打令法等三部ノ金三打 外金剛部〇心経テ

一打置^レ呂ヲ持^レシテ珠ヲ心経一卷続^レ了^レテ 大般若経名ニテ

打以下如^レ常¹³²

行穢重ノ服時ト其ノ処トノ行法ニハ 可レ畧ニ神分ヲ 此レニ

有^レニ二義^一 一義ニハ 外金剛部ヨリ 般若心経迄ノ一段ヲ畧^レ

靈分ノ句ハ 必可有之也或^レ又外金剛部等モ 如常ノ用之ヲ神¹³³

香呂―香爐

処―處

靈―靈―灵

¹²⁸ 「二打」別本ニハ、「二丁」トアリ。

¹²⁹ 「縦」別本ニハ、「従」トアリ。

¹³⁰ 「取ニ念珠香呂」別本ニハ、「取念珠香呂金打也」トアリ。

¹³¹ 「又神分」ノ前ニ別本ニハ、「神下ノ末而言ト云處ニテ置呂」トアリ。

¹³² 「通法也」別本ニハ、「是ハ通法則也」トアリ。

¹³³ 「持レシテ珠ヲ」別本ニハ、「持珠ヲノミ」トアリ。

¹³⁴ 「打」別本ニハ、「丁」トアリ。

¹³⁵ 「又」別本ニハ無シ。
¹³⁶ 「神分」別本ニハ、「神名」トアリ。

分ノミ畧之一 仰云後義ハ猶以叶ニ道理ニ但シ常ニハ用ニ

初義ヲ云

仰^⑬キテウケタマワリコウ 乞真言等^文 此ノ一段^⑭之祈願ト云也

摺レ珠ヲ^⑮祈念スル等ノ事了テ 广^⑯訶ヒルサナニテ 金一打

本尊ノ号三返金三打 但三返三打ハ局^⑰ニ當^⑱レ号^⑲ニ 三返

金一打 金剛手并一打 两部界会一打 外金剛部等

一打 乃至法界等^{一打} 金剛手并^{一打} 以上都合九打

也 松^⑳ニハ七打也 尔^㉑ルニ祈願ノ金ハ七故^㉒ニ謂^㉓ニト之ヲ七ツ

金^㉔ト名目ヲ定^㉕ル人有之理不尽ノ事歟 當^㉖ニハ引道^㉗ニハ九

打 大法^㉘ニハ七八^㉙ 惣^㉚此ノ金ノ数不定也

自明抄ナトニ八十打ハカリモ見タリ薬師法^㉛ニハ十打

愛染亦尔也 仏眼^㉜ハ八打如此^㉝ニ不同何^㉞ソ云ニ七金ト乎

但松^㉟ニハ十八道七打也 尔^㊱大法^㊲ニハ六打歟 惣^㊳別共^㊴

七打ト必定ノ義ハ无^㊵之 七金ノ名目ハ无^㊶ニ勿体^㊷一也^云 仰

云晴ノ時^㊸ハ珠持^㊹レ左^㊺右^㊻ノ手^㊼ヲハ覆^㊽ニ右膝^㊾ニア^㊿キウケタマ

⑬「用ニ初義ヲ」別本ニハ、「用初義也」トアリ。

⑭「アオキウケタマワリコウ」別本ニハ、「アライテウケタマワリコウ」トアリ。

⑮「局ニ當レ号ニ」別本ニハ、「局當七松ニハ号」トアリ。

⑯「七」別本ニハ、「七打」トアリ。

⑰「謂」別本ニハ無シ。

⑱「引道ニ」別本ニハ、「別尊ニハ」トアリ。

⑲「惣」別本ニハ、「打惣」トアリ。

⑳「也」別本ニハ無シ。

㉝「如此」別本ニハ「如打如此」トアリ。

㉞「不同」別本ニハ、「不同也」トアリ。

㊿「アラキ」別本ニハ、「アライテ」トアリ。

数一數

井一菩薩

广一摩

裳—装、率—寧

ワリコウ等ノ祈願ナス也 不レ摺レ珠ヲ也 但御修法ニハ
晴ナレトモ摺レ珠也云 殊別⑭問諸ノ法則ニ晴自行ト
見タリ晴ト者裳束丁寧ノ時ニ局乎又常様理趣三昧等サマ衆僧
アル時ハ一切晴欵如何 仰云一切晴也

付レ之可レ有ニ重々一迄也

先祈願ニ仰等珠ヲ摺ト不レ摺ニ義ノ之中自行ニハ摺レ之ヲ晴ニハ

不レ摺云 尔ルニ理趣三昧助炊一人二人御社 二一時ニハ⑮

不レ摺レ珠ヲ此モ晴ノ法則也云

次五悔文 一切恭敬ヨリ三昧耶戒迄金剛合掌ノ一印也

但細字ニ印明皆如ト上ニ有ル故ニ浄三業ハ如上蓮花合掌

ナルヘシテ改レレ印ヲ人有レ之欵大ニ非也 皆ノ字ヲ印ト明

トニツニ見ヘシ或ハ又往古改レレ印ヲ人有レ之欵今不尔云

發願文 珠取金一打テ珠ヲハ二匝ニ一匝ヲハ長ク持ニ左手一臍

程ニホソヨリ安ニ右手ヲハ覆右膝ニ如クスル施願ノ手ノ也

⑭「ハイテ」別本ニハ、「ワイテハ」トアリ。

⑮「二時ニハ」別本ニハ、「之時モ」トアリ。

⑯「ニツニ」別本ニハ無シ。

⑰「人」別本ニハ無シ。

⑱「ホソヨリ」ト左ニヨルヘシ」別本ニハ無シ。

臍—臍

珠呂—珠爐

讀—讀

灵—靈

勸—勸

古—鈷

才—第

其任至^⑮五^ル大願^ニ了^テ普供養印言結誦^ノ金一打^テ珠^ヲ

ワゲテ置脇机^一也 晴^レノ時^ハ晷^一發願^ラ取^ニ珠呂^ヲ金^ヲハ可^レ

讀^ニ勸請^ラホソノ程^ニ持^ツ 五大願了^テ置呂^ヲ 菩提無

上誓願証^ノ次^ニ護持仏子成大願^ノ句可有^一之^ハ晴^レノ時^ハ微

音^ニ唱^レ之^ハ若有^ニレ^ハ施主^一護持施主^ニ々々 又灵分^ニハ過

去聖灵成仏道也 勸請^{御自筆}之時^{神分等}珠呂^ヲ两手^ニ取^レ之事不

可然^一也 左^ノ手^ニテ柄^ノ曲タル邊^ヲ取^ル也 晴^ニハ一古^ヲ

具スル也 仍三種欵若^シ万タラ供ナラハ五古 珠^ハ左手

取^之 香呂^ハ右手也 磬下座^ノ故^上

仰云五大願^ヲハ珠^ヲ腕^ニ懸^テ合掌^ノヨムト云事関東^ニテ初^テ

聞^{タリ} 又本次才^ニモ 如^レ此^ノ付紙有^レ之^レ此復衷^{イオカテ}中初^テ見^{タリ}

誠輕忽^ノ法則也 於^ハ本寺^ニ此^ノ沙汰更^以无^レ之^レ又旧記

不及見^一也^云

大金剛輪^文 以^ニ中指^ヲ押^ス頭指^ノ上節^ヲト云故^ニ只頭

指^ノハシハカリ^ヲ押^ス事^{アリ}委不^レ見^ニ印文^ヲ故^ニ中指^ノ

⑮ 「ワゲテ」別本ニハ、「轡」トアリ

⑯ 「時」別本ニハ無シ。

⑰ 「置呂」別本ニハ、「置呂也」トアリ。

⑱ 「左ノ手」別本ニハ、「右手」トアリ。

⑲ 「本寺」別本ニハ、「本」トアリ。

⑳ 「不及見」別本ニハ、「不見及」トアリ。

㉑ 「ハシハカリヲ」別本ニハ、「ハカリヲ」トアリ。

㉒ 「故」別本ニハ、「故欵」トアリ。

下ヨリ二頭ノハシヲ可指出如レ此アツテコソ輪ノ形ナレ
ハ八輻十二輻千輻等何レマレ一輻ヲ拳テ頭スレ余ヲ也

地結文 以二大指一向レ地ニ觸之一云 无ク用心ニ如印

文一臂ヒテ怒リテヲソロシケニ見ル也 外見不可尔一人前ヘテハ

何ト无キ様ニ観念計テ見苦ク不可行之一 天台方ノ真言師

ナトノ如ニハ不可有之一此レ体ノ印ハ何レモ可如此一

金剛墻文 仰云云旋⑮逸身ナトヲ行者ノ身前トノミ心得テ

ハ浅也 随テ心ノ大小ニ即成ル故ニ所及心一ノ一室ノ内一房

中乃至三千界也 結界スト可レ観 身前ニテ旋逸十万無

邊際ノ結界ヲアラハス也 例セハ如下下大金剛輪ノ十二輻

マレ千輻マレ拳ニ一輻ヲ二頭ニ頭中餘輻ヲ云云

道場観文 為二金剛宝蓮一トヨム也 誤テ金剛ノ宝蓮ト

ノ、カナヲヨムヘカラス 按レ山ヲ音訓ノ間ハ可任意ニ

廣博ノ体ニ 如レ是観シ了テ山中ノ古本ニ如是ノナキ

⑮「計テ」別本ニハ、「許リニテ」トアリ。
⑯「身苦不可行之」別本ニハ、「見吉可
行之」トアリ。

⑰「旋逸身」別本ニハ、「右旋逸身」ト
アリ。

⑱「大金剛輪」別本ニハ、「金剛輪」ト
アリ。

⑲「餘輻」別本ニハ、「餘輻也」トアリ。

⑳「如是ノナキ本有レ之」別本ニハ、「如キ
是トキノカナ有之」トアリ。

本有レ之不審也云

如来拳印文^⑩ 两部不二ノ印也如口傳一

小金剛輪文 丁寧ニハ真言九返也 謂ク身ノ五処ニ五返

虚—虚、壇—壇

虚空下^④壇上下^④本尊下^④諸尊下^④也 収ニハ口ニ 无ニ真言一自

行ナトノ時ニハ懃懃ニ可レ行畧儀時又ハ晴⑩法則ハ見聞ヲ

本トスル故ニ未タ必⑩シモ 不レル以ニ視心一ヲ也 印⑩ヲ順轉ノ

返—反

一二返真言一返計⑩リ返⑩レ印虚空壇上本尊諸尊ヲ印スト

視ノ左右ニ三轉ノ間ニ返計リ又印向レ身ニ収口ニ散スル也

都合真言二三返欵 或ハ四返計リナルヘシ

廻—回

問頼記二道快抄印ノ面ヲ仰ケケ順ニ豎ニ三返廻轉文 順ニ豎ニ轉

スル方如何 仰云何モ不覺悟一但印ヲ上下ヘ轉ス上始下

終ルヘキ欵 此ノ分モヤウカマシクシ又業ニ立テ、悪シ

処—處

各々ノ印処ハ只視心ナルヘシ云

請車輅文 召ニ中指頭ト者印ノ形ヲ云⑩乎⑩迄也

⑩ 「文」別本ニハ無シ。

⑪ 「五処ニ」別本ニハ、「謂ク身ノ五處」トアリ。

⑫ 「可レ行」別本ニハ、「如余ノ可レ行」トアリ。

⑬ 「晴」別本ニハ無シ。

⑭ 「必不」別本ニハ無シ。

⑮ 「印ヲ順轉」二返真言一返計リ」別本ニハ、「印ヲ順轉三反真言一反或ニ反許リ又」トアリ。

⑯ 「計」別本ニハ、「許」トアリ。

⑰ 「上始下終」別本ニハ、「上終下終」トアリ。

⑱ 「云〇乎迄也」別本ニハ、「云迄也」トアリ。

二中ノハシヲ招クヘキ所由ハ更ニ先レ之結レ印大指ニテマ
子ク見ルヘシニ中ハシヲマ子クニ似タリ云 空中ニ也¹⁷⁾

本ハ中カト莫シタリ 可任意一

四明 文 先忿怒拳 文 两手ヲ背ケケニ小ヲ鉤結シニ頭ヲ舒

也 此時マテハ不レ唱レ言ヲ 屈ニ進力ヲ鉤スル 時¹⁸⁾

鉤セル進力ノ交ヘ指ノ腹ヲアワスル時¹⁹⁾ 交ヘタル進力ヲ

猶深ク鉤結²⁰⁾ 鏤スル時²¹⁾ 其任腕ヲ振時²²⁾ ト唱也 鉤

索²³⁾ 鏤²⁴⁾ 鈴²⁵⁾ 如此鉤索鏤鈴ノ四攝也 以ニ印相ヲ四攝ノ明

知レ之

拍掌 文 付ニ舞儀一兩説アル中ニ可レ如レ旋ニ手鞠一也

大指ヲ横²⁶⁾ 掌中ニ餘ノ四指ヲ舒テ舞儀 事ニ返 拍スル

時申ニ大指一右頭中名ノ三指ニテウツ也 大小二指ハ離

散ノ体イ也 左手²⁷⁾ 如レク²⁸⁾ 如レルノ 三拍ノ事初ニウチツ、ク

ルト 中後ヲ拍続クルト兩説ノ中 教記先ニ優劣一 任

¹⁶⁾「マ子ク」別本ニハ、「マ子キ」トアリ。

¹⁷⁾「空中ニ也」別本ニハ、「空中」トアリ。

¹⁸⁾「本ハ中カト莫シタリ」別本ニハ、「古本ハ空中カト迄シタリ」トアリ。

¹⁹⁾「如此」別本ニハ、「如次」トアリ。
²⁰⁾「四攝也以ニ印相ヲ」別本ニハ無シ。

²¹⁾「大小二指ハ離散ノ体也」別本ニハ「大小指ハ離散タル躰也」トアリ。

²²⁾「左手」別本ニハ、「右手」トアリ。

餘一余

事一豆

衆一衆

レ意云 頼記ハ初二拍続ノ義ヲ取ルト見ヘタリ 雖レ然師
主モ亦山中ノ衆モ多分ハ二三相続テ用ラル、之可レ同ニ此ノ
義ニ

網一網

金剛網ニ 更不可言^文 意如何 仰云不ト及言一云意
ナルヘシト云

摩一广

大三摩耶 横麦^ト者カラス麦也 右旋三匝^文 右轉ハ
結界左轉ハ辟除也 又ハ順轉^右 逆轉^左云也

結界順逆共ニ用之 解界ニ左轉ノミナルハ辟除欵
又結界ノ義欵 辟除^{御自筆}ヲハ不能解之 故解結界一マテ也^上

闕伽^文 印相如文誤^テ大頭ヲ捻スル体ニスヘカラス

取^レ器^ヲ大中二指^テ取^ニ花^ヲ腕^ヲ頭指^ヲ器ノフチノ側ヨ
リ押フル様ニスル也 左ノ手ヲアカノ半印^ニ作りテ其上ニ
置之 先誦真言^ヲ大頭中ノ三指^ニ器ノ端^ヲ取^リ水^ヲ滴^⑮
ナカラ唱偈文ニ也 付^レ之有^ニ晴^ト自行^ト不同^一 晴^{ニハ}

⑮ 「大頭」別本ニハ、「大指」トアリ。

⑯ 「花^ヲ腕^ヲ」別本ニハ、「火^ヲ埃^ヲ」トアリ。

⑰ 「頭指」別本ニハ、「頭」トアリ。

⑱ 「水^ヲ滴^ヲナカラ」別本ニハ、「水^ヲ三度
滴^テナカラ」トアリ。

才一第

二度滴^テ三度兼^ル也謂^ク後^ヲチト引延^ル也 自行^{ニハ}已達^ノ

時^モ丁^ニ寧^ニ三度滴^ル也

^⑩シ水^{ニハ}大頭^{モテ}取^ニ火^ニ椀^ニ縁^一也

私云本^ニ次^ニ才^ニ又^ニ頼

記教舜^ノ記^ニ等^{ニハ}印^ノ上^ニ置^テ真言^及偈文^ヲ誦^シ而^テ後^ニ三度滴

ルト見^ヘタリ 尔者次^ニ才^ニ口^ヲ決^シ丁^ニ寧^ノ義 仰^ニ分^ハ畧^シ義^ヲ欵 依

之重奉^レ尋^ニ相違^之処^一

仰云不^レ可^レ背^ニ祖師^ノ掟^一ニハ 但自元^ニ如^レ此^レ仕^シ付^テ来^レ

リト云 捻^ニチ^ニフスルトカナヲ付^タリ尔^レ任^テチツスル

トヨムヘシト云

滴盤上^文 盤^ニサラトカナヲツケタリ今盤^ト者花^ニサラノ

座^ノ事也 花盤^共火案^ニ書^也 文字^ハ異^ナレ任^テ名^目ニツ

カフ時^ハ何^レノ字也任^テ引^キト云ヘキ也

問滴後器^ヲ掌^ノ上置^キ 两手相寄^テ作^リ阿伽印^ニ一^ニ祈^ニ念^ノ所^一^⑪

求^ニ而^テ後^ニ器^ヲ壇^ニ置^クト云事如何 仰云更^ニ无^ニ其^レ傳^一

也云

⑩「シ」別本ニハ、「尸」トアリ。

⑪「火椀」別本ニハ、「火坑」トアリ。

⑫「火案」別本ニハ、「火坑火案」トアリ。

⑬「器」別本ニハ、「又器」トアリ。

⑭「也」別本ニハ、「事也」トアリ。

坐一坐
座下
濶用

数—數

縱御皇華雖祈念一スルト、滴レ之間ノ所作也 不可合兩手一ヲ欵已上

⑫ 「不可合兩手欵」別本ニハ、小字ニ行割書ニナツテイル。

振鈴文 如レ常右ノ手ニテテ先取レ杵ヲ 次ニ鈴ヲ取副ル也

取レハ鈴ヲ頭指ヲ鈴ノ五肱形ノ上ニカケテ余ノ三指ト大指ト⑬

⑬ 「大指」別本ニハ無シ。

ニテ取ル也 振ル事ハアマリニ遲キモ聞悪シ又早キモ事ノ

外ニ輕忽也 可ニ相計一也 數ハ五三二ニテ十返ナレト押

返々ニ三返三十計或ハ二返計リ可隨宜一ニ 鈴ヲ高ク持タ

ルハ賤キ也 膝ニサハラヌ程ニ持テフルヘシ 先ツ左ノ

脇ノ方ヨリ振初テ乳ノ下程ヘフリアケ又タモトノ処ニ振納

ムル也 但是御皇華古義也 近代ハ一処ニテ振之也已上 問

⑭ 「也」別本ニハ無シ。

鈴ノ終リヲカラミト振留ムヘシト口決ニ見タリ可レ爾欵

仰云耳ニタチテカラトフルヘカラス只均等ナルハ

聞吉 縱カ爾振ル何トナクカラトフルヘシアマリ

ニ耳ニ立テタルハクレト比興也 問鈴杵加持如何

仰云取鈴杵一事ハ如上ノ加持ノ処ハ身五処ノミ見ルタリ 尔ト

虚空ヲモ加持スヘシ 先右杵ニテ逆ニ三轉スル間慈救咒

一返

次順ニ三轉慈救咒一返 此ノ逆順六轉三返ノ間ニ身五処ヲ

⑮「三返」別本ニハ、「二返」トアリ。

加持スト想ヒ 次又三度動轉ノ虚空ヲ加持スル也 尔

者都合加持ハ九轉真言ハ三返也 然後振之フリ了テ杵ヲ

三度動轉ノ五処置盤ノ上ニ也云

塗香 文 額口心ヨム也 右手ノ五指ヲ伸立テ大指ヲ掌ノ

中へ横へ豎レテ、辟ヲ向レ外ニ佛ニ香ヲヌリタテマツル義也

明一返 惣ノ五供養ノ言ハ皆一返也 仰云仏ノ面ニ香ヲ

応一應

ヌル事崇敬ノ義ニハ不相応也 尔西天風俗和朝ニハ異

ナル欤 本朝ニハ貴人ノ顔ヲ向ヒ見ル尾籠也 又其ノ名字

ヲモ直ニ不レ侵也 天竺瞻仰尊顔トテミミヲ仰キ見ル此ヲ敬ノ

最頂トス又白仏言世尊世尊ト呼テ白シ上ル也 如レ此

等ノ義多端也云 ム云一往ノ御雜談ナリ 非ニ実義ニ也

⑯「此」別本ニハ無シ。
⑰「世尊ト」別本ニハ、「直ニ世尊ト」トアリ。
⑱「義」別本ニハ無シ。
⑲「也」別本ニハ無シ。

髣一鬢

花髣 空輪離立 文 尔着ニ風ノ側ニ也 焼香ノ印ノ二

藏一藏

空ヲ離申ニハ異也 次五供ノ明ニ十八道ト台藏ト不同ナル

処有之 不可混乱一 チリヒユ台藏テハタリヤヒユ也

飲食ハリタトヒハリンタテイマカロハリク台テハ

マリントトヒハリンテイマカハレキ也 灯明リシ

ソハラタハムハサナウ識ミ揉タリヤ イ本ニハ

ムハサナウ爪ニ揉也 台テハアラソハラタハムサナ

ウ識ミ揉也 如此相違ハ非一也 勿ニ局執一「清濁

假字能ミ見分至文取ニ可分別一迄也

事供文 右ノ中指大指以テ火案ノフチヲ取テ頭指ヲハ花

サラノフチニ側ヨリヲサフル様ニ取テ左ノ印ノ半印上ニ置テ右

小三古ノ印作マニニテ 加持之一両手合テ闍伽ノ印ニナ

シテト唱テ供スル也

常ニ用ル「三古ノ印一有之一」 次第ニモ三古ノ印ト見タレ

近代ハ不レ尔如レ上ノ用之

200 「チリヒユ」別本ニハ、「チリヤヒユ」トアリ。

201 「タリヤヒユ」別本ニハ、「タヤヒユ」トアリ。

202 「ハリタトヒハリンタテイマカロハリク」別本ニハ、「ハリンタトヒハリンタテイマカロハリク」トアリ。

203 「マリントトヒハリンテイマカハレキ」別本ニハ、「マリタトヒハリンタテイマカハレキ」トアリ。

204 「リシソハラタハムハサナウ識ミ揉タリヤ」別本ニハ、「リシソハソハラタハムハサナウ識ミ揉タリヤ」トアリ。

205 「ハムハサナウ爪ニ揉」別本ニハ、「ハムハサナウ爪ニ揉」トアリ。

206 「アラソハラタハムサナウ識ミ揉」別本ニハ、「アラシソハラタハムハサナウ識ミ揉」トアリ。

207 「マニ」別本ニハ、「マ」トアリ。

208 「不レ尔」別本ニハ、「不分」トアリ。

第一第

時花^文 仰云次才^{ニハ}時花^{ト有レヒ} 四度ノ間ハ不^レ用^ニ時

②⑥ 「花」別本ニハ無シ。

花^一只櫛迄也

問簡異如何 仰云惣^ソ行^ノ時開白^ノ不^レ及^ニ結願^ニ壇上等改

②⑦ 「行」別本ニハ、「別行」トアリ。

ル^一忌^ム之^{②⑧} 四度ノ内^モ一ケ度^ニと^ニと^ノ開白^ト結願^{トハ}

②⑧ 「忌之」別本ニハ、「忌之也」トアリ。
②⑨ 「四度」別本ニハ、「四ケ度」トアリ。

堂莊嚴已下堂内掃除等ヲナス也^{②⑩} 其ノ中間ニ不^レ替壇上ノ

②⑩ 「也」別本ニハ無シ。

之体^一也 而^{ルニ}時花^ハ五日十日十五日廿日ノ外^ハ無^レ之

故^ニ不^レ断ナル花用^ル也 不定^ニ日数座数^ヲ自行^等ニハ時

②⑪ 「故」別本ニハ、「改」トアリ。
②⑫ 「自行」別本ニハ、「自然」自行」トアリ。

花櫛任意 問開白結願ノ日外不^レ改^ニ壇上^一者何^ソ立花油

器不^レ定^ニ日限^一タ^レ萎限^レ濕^{スル}乎 仰云每座ノ供花^ニ

同也 能々分別^ノ不^ニ局執^一云

捧額^前奉獻^之^文 乳ノ下程^{ニテ}供スル也 額前^ハ視心也

②⑬ 「前」別本ニハ無シ。

飲食灯明^ハ其任加持^ソミ^ミノ印^ヲアラタメテ作^テ闕伽^ノ

半印^ニ^一ト供スル也

②⑭ 「」別本ニハ無シ。

讚^ニ婆^吽慕^額^文 婆^ヲハハ子カナニ用^ル也 別^ソウム^ト不^レ

②⑮ 「婆」別本ニハ、「吽婆」トアリ。

壇一壇

濕一湿

獻一獻

灯一燈

額一額

云ハムホニトヨムヘシ

普供養三力了テ改レ印ヲ作ニ金剛合掌ニ 小祈願 礼佛

等唱レ之

入我々入^文 外縛^{①⑨}ヲハノ解カ開レ掌仰ケテ大ヲ捻スル

弥一彌、陁一陀

也 法界定印ニ二説有中ノ一説也 又入我々入ハ弥陁

定印 字輪規ハ法界定印或ハ二所共ニ弥陁定印兩所共ニ

法界定印ナル「モ有レ之 今ハ不レ然如ニ次オノ用之

第―第

正念誦 作法如ニ次第一 大指頭指相捻スル説法ノ印ニテ

記数一ヲ 地水火ノ三指ヲハ申立ル也 付レ之初ノ七返ハ掌ヲ

寧―寧、滿―滿

向外ニ二寧滿之一也 七返了ラハ向^{②①}外^{②②}内^{②③}兩手ヲ寄テ二小ヲ

側メ相合ス也 兩ノ母珠ヲ不可越之ヲ記レ数 左ノ大頭モ

母珠ノ際ニテ持也^{已上}

問向レ内ニ念誦スル時地水火ノ三指両手各々ノハシヲ捻ス^{②④}

閔―聞

ル如何 仰云不レ尔也 未レ閔ニ其説一只二小ノ側相寄

②④「捻スル」別本ニハ、「捻スル」トアリ。

①⑨「外縛」別本ニハ、「印外縛」トアリ。

②①「共」別本ニハ無シ。

②②「向外」別本ニハ、「向内」トアリ。

剩一剩

スル迄也 剩へ廣澤ニハ、地水火ノ三指サヘ不レ申也 初心ノ時ハイカニモ丁寧ニ観念等有レ之已達ノ時ハ、観念有レト掌ヲ向レ外ニ向レ内等ノ義无之袈裟ノ下ニテ何ト无キ様ニ両手ニテ取レ珠ヲ念誦スル也 仰云初心ノ時モ、向外ニ向内ノ義不庶幾事也云

ム一私、微一微

ム云口決等モ此ノ義微隱歟

取管文 昔ハ正念誦ノ珠入テ管ニ置レ机ニ也 今不レ用ニ

此ノ義ヲ云

印佛読經文 意如何 仰云供養法終ハテタリケ不可有

隙一隙

ニ油断一 若シ少シモ有レラハ隙如レ此事業ヲモナセト也

未三必シモ可レキニハ有ニ此ノ法則一 但祖師制作ノ次第ニ載

ラル、ハ別ニ有ニ口傳一乎云 問立花供之乎 仰云只為

莊嚴迄也 供レハ之但故僧正澄立花ヲハ立タル初メニ

供スル也 立替ル時モ如此後ニ不可供之ヲ仰ラル、ナ

嚴一嚴

②③「観念」別本ニハ、「観念等」トアリ。

②④「下ニテ」別本ニハ、「内ニテ」トアリ。

②⑤「スル」別本ニハ、「迄」トアリ。

②⑥「向外ニ向内ノ義」別本ニハ、「向内」トアリ。

②⑦「隱」別本ニハ、「陰」トアリ。

②⑧「珠」別本ニハ無シ。

②⑨「ハテタリケ」別本ニハ、「タリトテ」トアリ。

②⑩「有」別本ニハ無シ。

②⑪「供」別本ニハ無シ。

②⑫「供」之別本ニハ、「供之无之」トアリ。

②⑬「澄」別本ニハ、「澄」トアリ。

②⑭「如此」別本ニハ、「如此也」トアリ。

②⑮「仰ラル、ナリ」別本ニハ、「仰ラレシ也」トアリ。

兼一承

り而^{②⑥}別行ノ時サヤウノ指南ヲハ不レシ兼也 誰人モ如レ
此コソ云ナレ 今時供スル人モ先レ之故ニ莊嚴トノミニ心
得タルハ宜也云

②⑥「而」別本ニハ、「尅モ市」トアリ。

曰一因

問^④四面ノ仏供等嚴重ナル時ハ供スル方如何 仰云有二兩
說一ニ義ニ云四方共ニ分テ前供養後供一前供ノ方ヲハ四方
共ニ前供ニ供レ之後供ノ分ヲハ四方共ニ後ニ供レ之 此ノ義ハ
花形壇ヲ云ニ八供養壇ト能ク順セリ 一説ニ云四面各々ニ不
分ニ前供後供一正面ノ火舎ト与ニ後門ノ火舎一局テ右ノ方
ヲハ行者右ニ供シ前供一左ノ方ヲハ供ニ後供一常ニ用ニ此ノ義一
本尊左

④「供」別本ニハ無シ。

②⑧「分テ前供養後供」前供ノ方ヲハ四方共ニ
前供ニ供レ之後供ノ分ヲハ四方共ニ後ニ供レ
之「別本ニハ、「分テ前後供」前供ノ分ヲ
ハ四方共供ニ之後供ノ分ヲハ後供ニ之」ト
アリ。

會一會一会、臈一臘

也 御修法ノ時東寺山、門寺門或一門ノ中ヲ野澤諸流
會合也 其ノ時重スルニ前供養終レハ兼仕ノ上臈来テ
行者ノ右ノ方ヲハ正面ヨリ後門ニ至マテ悉ク備替テ重子座ノ
莊嚴ヲ周備後供養了レハ兼仕ノ下臈来テ行者ノ左ノ方ヲ又
一所ニ取置也 旁以用ニ後ノ説一來也云
問每レ方各々ニ供レ之ヲ乎 又運心欵

②⑨「山、門」別本ニハ、「山門」トアリ。

④「其ノ時重スルニ」別本ニハ、「其時ハ
日中ノ時ヲ重スルニ」トアリ。

④「一任」別本ニハ無シ。

②⑩「行者ノ左ノ方」ノ次ニ別本ニハ、「悉
取重座ノ前方便ノ間ニ重座ノ疑莊嚴作之
也又結縁水丁ノ時モ正面与ニ後門一局右
方ヲハ一取置也」ヲ加エテイル。

仰云運心也 謂ク正面ノ闍伽ノ時ハ余方ノ阿伽心ヲハコ
ヒ乃至佛供灯明等如レ此ナルヘシ云

問供養法終テ下座スル時ハ捨タル花ナトヲ取置テ佛具²³
等取重スル欵 又捨タル任下座欵

仰云自行ノ時ニ二義ト可レ任ニ行者ノ意ニ 晴ニハ金一

打其任下座スル也 曾テ佛具供物等ニ不レ可レ綺但前具

並タル間不同ナラハチト押シ直シ又半疊ヲハ可直也 田舎

廻國ノ時見レハ所ニ作法ヲ或ハ闍伽ノ器計ヲ塗香器ニ重子

随分ノ法則トシ又ハ散シタル花ヲハ髻ノ器ニ捨入ル花塗ア

ト次才ニ闍伽器ニ重子左方亦如レ此スル人有何レモ見苦

也 晴ノ時ハ必兼仕周備ス之何阿闍梨ノ役タラン乎 弁

供等ノ作法ハ有ルニ 无レ苦云

²³「佛具」別本ニハ、「供具」トアリ。

²⁴「捨タル」別本ニハ、「行ヒ捨タル」トアリ。

²⁵「捨入ル」別本ニハ、「捨入レ」トアリ。

²⁶「兼仕」別本ニハ、「有兼仕」トアリ。

(已上十八道畢)

²⁷ 別本ニノミアリ。

綺—綺

疊—疊

髻—髻

④七〇頁底本ニ朱筆ニテ次ノ書キ込ミアリ、「或人考檜尾口決右十九曰即乍レ捧レ闕伽水一祈レ願所求ノ事一訖置ニ器ヲ於本所也①云云。又千手儀軌右五曰瑜伽者闕伽一時心中所ニ希望スル事即發ニ願啓三白セヨ聖者ニ我所求ニ悉地願速ニ成就云。此レホノ之文作ニアカ一時祈ニ願所求ヲ見タリ如何一。

コノ文中「千手儀軌」ノ右二更ニ青筆ニテ次ノ書キ込ミアリ、「撰大軌左十一 無量軌右九左 藥師消炎軌右四右。

⑤七二頁底本ニ墨筆ニテ次ノ書キ込ミアリ、「豆ム云此記云順逆六轉間加ニ身五処ヲ者甲抄ノ御口御記トニ說中御記ノ意也トアリ、「豆ム云」ノ豆ハ宥豊師ノ豊ノ片字。

⑥七三頁底本ニ朱筆ニテ次ノ書キ込ミアリ、「五供明十八道与ト胎藏一不同ホ或人云 考ルニ今時流布ノ次第一此抄ニ所レ出文句違ス本次第ニ有ニ異本一欵若又此ノ抄ノ写誤欵」。

⑦七六頁底本ニ朱筆ニテ次ノ書キ込ミアリ、「或人云檜尾記右五曰次可レ獻ニ塗香花髻燒香飲食灯明賢瓶ホ一如レ次獻上云賢瓶ト者立花欵」。

- ① 『檜尾口決』内題「眞言祕要記及阿闍梨口決」弘法大師諸弟子全集卷上所収 百五十七頁八行目。
② 『千手儀軌』具名ハ『金剛頂瑜伽千手千眼觀自在菩薩修行儀軌經』大正藏第二十卷 七六頁中段三〜四行目。

- ③ 『檜尾口決』弘法大師諸弟子全集卷上所収 百八十三頁九行目。